

**アークフラッシュ施工された老人施設7年間インフルエンザの発症が報告されておりません。**

< \* > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

「石屋製菓」(札幌市西区)が大腸菌群を自主検査で検出したアイスクリーム商品を出荷していた問題で、札幌市保健所は10日に同社からの聞き取りで大腸菌群を検出した事実を把握していたのに公表しなかった。同社は12日に新聞各紙に掲載した「自主回収のおわびとお知らせ」で大腸菌群検出の事実を隠したが、同保健所は公表するよう指導もしていなかった。同保健所によると、石屋製菓が6月下旬に実施した自主検査で「アイスクリーム商品から大腸菌群が検出された」との情報が9日に寄せられた。同10日に同社に立ち入りし、自主検査結果の記録内容や同社が商品をひそかに自主回収していた事実を確認した。6月27日～7月27日に同社が実施した自主検査ではアイスクリーム商品173検体のうち66検体から大腸菌群が検出された。同保健所は「かなり高い割合で大腸菌群が検出されている」と認識し、同社に原因究明と対策を求めたが、商品回収や事実の公表の判断は同社に任せていた。14日に同社のバウムクーヘンからの黄色ブドウ球菌の検出と、チョコレート菓子「白い恋人」の賞味期限改ざんが新たに分かり、アイスクリーム商品の検出事実と併せてこの日に初めて同社が公表した。同保健所は食品検査で細菌が検出された際、公表するかどうかは(1)行政処分の有無(2)健康被害を及ぼす恐れの有無などの内部基準に照らして判断しているという。札幌市保健福祉局の山口敏幸生活環境課長は今回公表しなかった理由について「石屋製菓が自ら公表することで行政の目的は達せられると判断した」と説明。おわび広告にある「食品衛生法の規格基準に適合しない商品」との表現が大腸菌群を検出した事実を「包括すると考えた」と話した。

**違っだらう!!** 札幌保健所は国民の健康被害よりも1企業の利益を優先的に考えた?

**秋田県仙北市の10歳未満の姉妹2人が病原性大腸菌O157に感染したと18日に発表。**9日に発熱し、13日に腹痛、水溶性下痢、血便の症状が出た。いずれも快方に向かっているという。県内のO157感染者は7月20日以降だけで20人と相次いでいるため、注意を呼びかけている

**茨城県保健予防課は16日、鹿嶋市内の保育園「鹿嶋さくら園」(田中輝雄理事長、園児31人)で10～16日までに1～4歳の園児11人から腸管出血性大腸菌O157が検出されたと発表した。**一部の園児に下痢などの症状が出て、検便の結果判明した。

重症者はおらず、快方に向かっている。園内でのプールやおむつ交換の時などに感染が広がった可能性があるという。同園は19日まで自主的に休園する。県内のO157感染者は今年28人。

**大阪市北区の無認可保育施設「ポポラー大阪天六園」**で発生した病原性大腸菌O157の集団感染問題に関連し、市は16日、同区の別の無認可保育施設に通う女兒(3)の家族5人の感染が新たに確認されたと発表した。この女兒はポポラー大阪天六園にも一時通園し、既に感染が確認されていた。

新たに確認されたのは女兒の両親や兄妹らで、父親(38)が軟便の症状を訴えているという。この保育施設での感染者は計7人となったが、園児や家族、職員ら計約40人の検便がまだ終わっていない。ポポラー大阪天六園関連での感染者はこれで計16人になった。一方、ポポラー大阪天六園は同日、「園内で今後、感染拡大の恐れはない」などとして営業を再開した。

**広島県福山市**で病原性大腸菌O(オー)157による感染症が相次ぎ発生、14日までに、昨年1年間の9件の2倍以上となる23件が発生している。県全体での51件(14日現在)中、45%を福山市が占める計算で、過去5年間と比べても最悪のペース。市保健所は「手洗いと、食品加熱の徹底を」と注意を呼びかけている。市保健所と県福山地域事務所によると、福山市(合併前の旧神辺町などを含む)での、O157感染症の年間発生件数は、平成14年が10件、15年11件、16年13件、17年8件、18年9件 - と上昇気味に推移。

**埼玉医科大学病院(毛呂山町)**の入院患者から抗生物質の効かない多剤耐性緑膿菌(MDRP)が検出され、うち11人が死亡した問題で、同医科大は30日、外部調査委員会(委員長・木村哲東京通信病院長)から提出された最終報告を発表した。

報告書はMDRPの主たる感染経路について、尿路留置カテーテルの使用や気管内吸飲処置などの医療処置が不十分な標準予防策、接触感染予防策のもとで行われた可能性が高いと指摘。病院全体としてもMDRP感染対策方針の院内統一などが不十分 - としている。

### << 光触媒と同一の働きをする物質の合成に成功 >>

アークフラッシュ本部では、光触媒の唯一の欠点である光が必要という部分を補う為に光が必要でないが光触媒と同一の働きをする物質の合成に成功した。

机上の実験では、現状のアークフラッシュの約50%の効果を全く光の無い状態で達成した。今後はこの合成した物質の用途拡大と能力UPに開発の力を注ぐ事になる。

**\* 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 [sasagawa@arc-flash.com](mailto:sasagawa@arc-flash.com)

1号~76号までを配信希望の方はメールにて申込ください。